

枠を越え湧く委員会所信（案）

委員長 黒崎 謙

2024年、小千谷市は「消滅可能性自治体」として報じられました。現状のままでは小千谷
というまちが持つ産業と文化が縮小する懸念が示された今こそ、私たち若者がまちの魅力を
再発見し、内側から小千谷を盛り上げていく必要があります。しかし、それだけでは限界が
あります。小千谷の魅力をまちの外にも発信し、共感を得ながら新たに小千谷へ足を運んで
もらえるように促す取り組みが重要となります。

2026年、アジア・太平洋エリア各国から青年が集う2026 JCI ASPAC 新潟大会が開催され
ます。小千谷の魅力を国内外へ発信し、観光、ビジネス、文化交流の面で小千谷の持つコン
テンツ力や底力を示し、地域活性化に繋げられる絶好のチャンスです。一般的な名所紹介で
は人の心は動きません。心を動かすのは、五感を通して心に残る「感動体験」です。見る、
触れる、聴く、味わう、そしてその場の空気を感じる、そのような体験の積み重ねが、人の
記憶に深く刻まれるのであります。

私が経営するサウナでは、市内からのお客様はわずか1割以下で、ほとんどが市外県外の方々です。小千谷にゆかりのなかったお客様が、私たちにとっては日常である風景や文化を
特別な体験として味わいに来ています。錦鯉の美しさに見惚れ、小千谷縮の手ざわりを楽し
み、へぎそばを味わい、闘牛の迫力を全身で感じる、これらは、訪れた人にとっては忘れら
れない初めての感動体験です。こうした体験ができるまちである事実を伝えることで、小千
谷のブランドを確立できると考えます。

例えば、非日常を体験できるテーマパークから帰ってきた人が、その体験を語りたくなる
ように、小千谷でしか味わえない体験が人の心に残れば、その価値は自然と広がります。人々
が語り、その次には友を連れて訪れるという好循環を生み出すことこそ、持続可能な地域活
性化の第一歩です。小千谷青年会議所が地域とともに発信することを通じて、小千谷の魅力
が枠を越え、まち全体が湧くことにワクワクしながら、1年間取り組んでまいります。

【事業計画（案）】

1. 魅力ある小千谷の展開事業に向けた調査・研究
2. 魅力ある小千谷の展開事業の実施(ASPAC 新潟大会への参画及び6月例会の企画・設営)
3. 小千谷を知る事業(2月例会の企画・設営)
4. 心を動かす事業(11月卒業例会の企画・設営)